**「Ｔｈｅ　Ｎｅｗ　Ｔｉｍｅｓ」（英字日刊紙）の主要報道**

２０１２年１０月

在ルワンダ大使館

**（１）内政**

●　カガメ大統領の国会演説：４日，カガメ大統領は，国会開会にあわせ演説を行い，ルワンダがコンゴ（民）の問題に何ら関与していないにもかかわらず，国際社会がルワンダの援助を停止しろと言い続けていることに対し，こうした不公正に対し立ち向かう必要がある旨述べた。

●　インガビレ統一民主勢力（ＦＤＵ）インキンギ党（未登録野党）党首の裁判：３０日，高等裁判所は，同党首に対しテロや戦争を通じ当局に危害を与えようと策謀した罪及び１９９４年のジェノサイドを否定した罪で有罪判決を下し，懲役８年の実刑判決を言い渡した。今次有罪判決は，同党首の策謀がいずれも初期段階の計画であり，ルワンダに多大な悪影響を及ぼさなかったため減刑となった旨述べた（当館注：検察側は無期懲役を求刑していた）。一方，裁判長は，同党首のジェノサイド・イデオロギーに対する容疑を棄却した。また，同党首と共謀したとされ，逮捕された４名の容疑者も懲役（２年７か月から４年６か月）の実刑判決が言い渡された。同判決に関し，裁判長は，４名の容疑者は，自身の罪を認め，今次裁判に進んで協力したことから，酌量減軽となった旨述べた。

●　新上院議員の指名：１０日，６名の新上院議員が大統領及び政党フォーラム（ＰＰＦ）に指名され，翌１１日に宣誓式が行われた。今次指名は任期満了にともなう交代のためである。なお，上院議員の定数は２６名（任期は８年）であり，選出・指名方法は，選挙による選出が１４名，大統領による指名が８名，ＰＰＦによる指名が４名となっている。

**（２）経済**

●　ルワンダ中央銀行（ＢＮＲ）による為替介入：ＢＮＲは，米ドルに対するルワンダフランの更なる購買力低下防止のため，今年１月から８月までに３億７，５５０万米ドルの為替介入を行った旨発表した。ルワンダフランの対米ドル購買力の低下は，国内での投機の増加及び輸入需要の増加が主な原因である。

●　インフレ率：１２日，ルワンダ国家統計局（ＮＩＳＲ）は，９月のインフレ率（前年同期比）が５．６３％となり，前月の５．８１％を下回った旨発表した。燃料及び食料品の価格下落が主因であった（当館注：実際には，９月のルワンダフランの為替レートは大きく下がっており，輸入品を中心とするルワンダ物価水準にルワンダフラン安の影響が及んでいないものか留意する必要がある）。

●　世銀のビジネス環境報告書：２３日，世銀による２０１３年世銀ビジネス環境報告書（Ｄｏｉｎｇ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ）が公表され，ルワンダは１８５か国中５２位であった。カニンバ貿易・産業大臣は，ルワンダは競争力等において堅実なビジネス環境改善がなされている旨述べた。

●　スタンダード・アンド・プアーズ・レーティング（Ｓ＆Ｐ）社によるソブリン格付け：Ｓ＆Ｐ社は，一部の開発パートナーが対ルワンダ支援（当館注：一般財政支援等）の延期または停止を表明したことにより，ルワンダ政府の長期信用格付け及び見通しを「Ｂポジティブ」から「Ｂ安定的」に格下げした旨公表した。

**（３）外交・安全保障**

●　ルワンダの国連安保理非常任理事国当選：１８日，国連総会において，ルワンダが２０１３－２０１４年の任期で国連安保理非常任理事国に選出された。１９３か国中１４８カ国からの支持を受け当選した。ムシキワボ外務協力大臣は，特に，アフリカ諸国からの多大な支援に感謝し，ルワンダが「平和の価値」に重きをおき，その実現に向けた役割を果たしていくことは光栄なことである旨の謝意を表明した。

●　カガメ大統領の世界エネルギーフォーラム出席：２２日，カガメ大統領は，アラブ首長国連邦で開催された世界エネルギーフォーラムで演説を行い，（太陽光発電やバイオマスを燃料とする発電等）グリーンエネルギーへの投資が世界の持続可能な経済成長を促進する旨述べた。

●　第７回アフリカ経済会議（ＡＥＣ）の開催：３０日，キガリにおいて，アフリカ開発銀行（ＡｆＤＢ）の主催で，政府関係者，研究者，開発実務者等がアフリカの経済開発について議論することを目的とした年次会合であるアフリカ経済会議（ＡＥＣ）が開幕した。同会合には，カガメ大統領のほか，オバサンジョ・ナイジェリア元大統領，クラークＵＮＤＰ総裁，カベルカＡｆＤＢ総裁等の要人が出席した。開会式でカガメ大統領は，アフリカの経済社会開発はアフリカ主導で実行されるべきであり，指導者たちは，外部要因に対処しながら，いかに政治的及び経済的に国民の意志を実現させるかにつき再考する必要がある旨述べた。

●　ＩＣＴＲ・ルワンダ関係：９日，残余メカニズムは，ムニャルガラマ・ジェノサイド容疑者の裁判事例をルワンダの裁判所に委託した旨発表した。同容疑者は，ジェノサイド時にガコ軍事キャンプの指揮官であり，ジェノサイドの共謀，指揮及び扇動等の容疑がかけられている。同容疑者はいまだ身柄が確保されていない。また同９日，ＩＣＴＲは声明を発表し，上訴審において，ジェノサイド時に女性家族省の課長であったジャン・バプティスト・ガテテ容疑者の刑が無期懲役から懲役４０年に減刑された旨発表した。２００２年の逮捕からの勾留期間を考慮しての量刑である。

●　ジェノサイド容疑者の裁判：２２日，フィンランドのヘルシンキ最高裁判所は，バザランバ・ジェノサイド容疑者の無期懲役に対する上訴審で，同容疑者の要求を棄却した。同容疑者はジェノサイド時に牧師であり，反ツチ族の思想を広めフツ族による殺戮行為を扇動したとされる。また，２３日，ブギンゴ・ジェノサイド容疑者は，ノルウェーのオスロ最高裁判所にて無期懲役の判決を受けた。同裁判では，テレビによる遠隔会議が導入され，キガリ在住の証言者からも陳述が行われた。

●　ＥＵ・ルワンダ関係：１日，モスカＥＵ開発協力局サブサハラ・アフリカ課長は，第１０期欧州開発基金（ＥＤＦ）国別戦略ペーパーに対するこれまでのルワンダの開発目標達成状況を評価し，（既存パイプラインから）４，７００万ユーロの対ルワンダ一般財政支援を拠出した旨述べた（当館注：一方，現時点でのＥＵの対ルワンダ新規一般財政支援の検討は中断されており，１１月に提出が予定されている国連専門家パネルの最終報告書の内容次第で決定されるとしている。

●　ウガンダ・ルワンダ関係：９日，カガメ大統領は，カンパラで開催されたウガンダ独立５０周年記念式典に出席した。同式典には，同大統領のほか，ケニア，ソマリア，エジプト，南スーダン，ベナン，ブルンジ，コンゴ（民）及びジンバブエ等から国家元首が出席した。

●　ガボン・ルワンダ関係：５日及び６日，オンディンバ・ガボン大統領がルワンダを訪問し，カガメ大統領と会談を行った。カガメ大統領は，共同記者会見において，ルワンダとガボンは世界的な課題への対処に向け，二国間関係を拡大させていきたい旨述べた。

●　コンゴ（民）東部における武力衝突：８日，第４回大湖地域国際会議（ＩＣＧＬＲ）臨時首脳会合がウガンダのカンパラで開催され，各国首脳は大湖地域主導の持続的な和平の遂行について再確認した。同会合では，７月に開催されたエチオピアでの会合以来，同地域の武力衝突が収束しているといった前進がみられる旨言及された。１７日，ムシキワボ外務協力大臣は，国連安保理コンゴ（民）制裁委員会専門家パネル報告書（現在，最終報告書を策定中）がメディアに漏えいされたことに対し，遺憾の意を表明した。同大臣は，専門家グループが策定している最終報告書の内容が漏えいされたことで，いまだにヘーゲ（同専門家グループコーディネーター）が，反ルワンダをあおるような報告書を策定中であることが判明し，同氏が，コンゴ（民）東部における武力衝突の根本的な原因にたどり着くことのない政治問題を追及しようとしている旨指摘した。

*（注）「ルワンダ月報」は，ルワンダの英字日刊紙「Ｔｈｅ Ｎｅｗ Ｔｉｍｅｓ」の報道を当館限りでまとめたものです。記事の中の客観事実は，日本政府やルワンダ政府の公式見解と異なる場合がありますが，当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。*